

令和6年度 重点プロジェクト事業
未来をたくす「人づくりプロジェクト」

小中一貫教育推進事業

筑西市教育委員会
義務教育学校整備課

1 背 景

中学校が抱える課題の一つとして、学力・学習意欲の向上に加え、中学校1年生になったときに新しい環境での学習や生活に不適応を起こす、いわゆる「中1ギャップ」が挙げられている。

そこで、本市では学校を取り巻くさまざまな教育課題に早急に対応し、子供たちにとってより良い教育環境の整備、好ましい人間関係の構築を目指し、平成27年7月の総合教育会議において「小中一貫教育及び学校の適正規模・適正配置の基本方針」を策定した。

また、この基本方針を実現するために「学校の在り方検討委員会」を組織し、市が取り組むべき学校の適正配置の方向性についての答申を受け、取組を進めているところである。

2 目 的

市内小中学校において、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を図り、小・中学校が目指す子ども像を共有し、共通の認識のもとで、系統性・連続性の高い教育を行う。

3 概 要

各中学校区の特色を生かした小中一貫教育に取り組むとともに、活動内容の充実を図る。

また、「小中一貫教育及び学校の適正規模・適正配置の基本方針」及び「学校の在り方検討委員会」からの答申等に基づき、学校の適正規模・適正配置の検討を進める。

4 学校数の推移

令和7年4月1日現在

年 度	学校数	備 考
令和4年度	小学校 20校 中学校 7校	
令和5年度	小学校 20校 中学校 6校	中学校▲1校（下館北中学校と 下館中学校を統合）
令和6年度～	小学校 15校 中学校 5校 義務教育学校 1校	小学校▲5校、中学校▲1校、 義務教育学校+1校 （明野地区小中学校を統合し、 「明野五葉学園」を開校）

5 令和6年度の取組（事業実績）

（1）「学校の在り方」協和地区協議会の立ち上げ

令和5年9月26日付けで「学校の在り方検討委員会」から、明野五葉学園整備後の学校の適正配置の取組について「協和中学校区で学校の適正配置の検討を開始すべき」との答申をうけた。

そこで、令和6年度は、協和中学校区において「学校の在り方」協和地区協議会（以下、「協議会」という。）を立ち上げ、学校の適正配置にかかる検討を行った。

5 令和6年度の取組（事業実績）

（2）協議会の検討状況等

日 時	会 議 等	内 容
令和6年 5月10日	第1回協議会 会議	協議会の設立、事務局説明
6月14日	第2回協議会 会議	グループワーク
7月18日	第3回協議会 会議	明野五葉学園 視察
8月 2日	第4回協議会 会議	事務局から具体案の説明
10月11日	第5回協議会 会議	意見のとりまとめについて
11月 1日	第6回協議会 会議	協議会としての意見について
11月 7日	意見書の提出	（協議会から教育委員会へ）
11月26日	第21回学校の在り方検討委員会	準備委員会の設置について承認
令和7年 2月 7日	義務教育学校・協和地区準備委員会	義務教育学校の開校に向けた検討について

5 令和6年度の取組（事業実績）

（3）協議会からの意見書（R6.11.7提出）【一部抜粋】

本協議会では、「学校の在り方検討委員会」の答申に基づき、本年5月から協和中学校区における学校の在り方を協議してきました。

その結果、「協和中学校の敷地に施設一体型の義務教育学校を設置する方向」で検討を進めていくべき、との意見が多数を占めました。

つきましては、これまでの協議の中で挙げた義務教育学校の設置に係る疑問点や課題を精査の上、より具体的な検討を進めていただくよう、附帯意見を添えて意見書を提出します。

6 今後の方向性

拡充

協和中学校区における学校の適正配置については、今後、「義務教育学校・協和地区準備委員会」において、施設一体型の義務教育学校整備に向けて、より具体的な検討を行う。

令和7年度には、保護者及び住民説明会を経て基本設計に着手し、令和8年度に実施設計、令和9年度から工事に着工し、令和12年4月の開校を目指す。

なお、その他の中学校区においては、保護者アンケート等を踏まえながら、必要に応じて適正配置の検討を行う。